

## 第4回宮城県美術館リニューアル基本構想策定に係る懇話会 会議録

- 日 時 平成27年11月27日(金) 午後2時～午後4時
- 場 所 宮城県美術館 佐藤忠良記念館会議室
- 出席者
  - (委員) 佐々木吉晴座長 大場 尚文委員 泉 武夫委員 小野田泰明委員
  - 高山 登委員 竹内美恵子委員 吉川 由美委員
  - 欠席委員：中村 政人委員
  - (宮城県教育委員会・宮城県美術館)
    - 三浦正之教育庁参事兼生涯学習課長 鹿野田副参事兼課長補佐 大森管理調整
    - 班長 小野寺社会教育支援班長 上原社会教育支援班課長補佐
    - 米倉 誠副館長 三上満良副館長 川村広明管理部次長(総括担当)
    - 和田浩一学芸部長 西塚 弘教育普及部長 高橋伸昭総務管理班主幹

### 1 開 会

(進行：上原課長補佐)

只今から第4回「宮城県美術館リニューアル基本構想策定に係る懇話会」を開会いたします。

なお、情報公開条例19条によりまして、県の附属機関の会議につきましては、原則公開となっております。本懇話会につきましては、公開により審議を進めさせていただきます。

本日中村委員がまだ見えておりませんが、出席の予定となっておりますので、後ほどおいでになる予定です。

それでは、さっそく議事に入ります。以後の進行につきましては、座長にお願いいたします。

### 2 会議録署名委員の指名

(佐々木座長)

それでは、本日の会議の議事録署名委員2名を指名させていただきます。名簿順に小野田委員と泉委員にお願いいたします。

議事に入ります前に、傍聴人の取り扱いについて御説明申し上げます。本会議の傍聴につきましては「審議会等の公開に関する事務取扱要綱」が定められておりますが、本日の傍聴希望者について報告願います。

(事務局：小野寺)

本日、傍聴を希望している方はおりません。

(佐々木座長)

わかりました。

なお、「審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱」第8条により、公開した会議の資料及び発言者を明記した会議録については、県政情報センターにおいて3年間県民の方々の閲覧

に供することになっておりますので御了解願います。

それでは、議事に入ります。

### 3 議 事

(佐々木座長)

それでは(1)協議に入ります。イ「第3回懇話会議論の整理(案)」について事務局から説明をお願いします。

(事務局：小野寺)

説明に入る前に資料の訂正をさせていただきます。資料は事前に送付しておりましたが、修正がありましたので、本日お手元にございます資料で進めさせていただきます。

それでは、まず「第3回懇話会議論の整理」につきまして説明いたします。

はじめに、第3回懇話会で委員の皆様より宿題をいただいておりますので、そこから説明させていただきます。

**資料1**について説明。

- ・「県民の声の反映について」は、意見聴取を行う。(別紙)ニーズをしっかりと把握するために、聴き取り調査を利用者、県民(一般・大学生、高校生)、ボランティア等の施設関係者に行うこと。
- ・前回会議における高山委員からの質問への回答。これまでのリニューアルに関する議論の資料については、過去に議論をした経緯はないので、提示できる資料等はないこと。
- ・前回会議の意見を項目ごとに整理したものであること。

(佐々木座長)

この件に関して、御質問はございますか。

(高山委員)

運営方針の内容について、発信に関することが欠けている。これはどうしてか。今までの議論を通して、宮城県からの発信が少ないという意見が出ていたので、宮城県からの発信という観点をどこかに入れてもらいたい。

(事務局：小野寺)

その点については、意見の中に取り込み、付け加えていきます。

(吉川委員)

アンケートの数ほどのくらいにする予定ですか。

(事務局：小野寺)

母数としては何百単位を考えています。利用者数のどのくらいになるかは精査して、データとしてしっかりと意味のある数にしたいと思っております。

(吉川委員)

利用者の数はわかったが、一般県民の数はどうなるのですか。

(事務局：小野寺)

今後期間を決めて、進めて行く予定ですが、委員の方々から目安になる数を出していただくと助かります。

(吉川委員)

母数と言うよりも、広くいろんな立場の人からの意見が挙がってくると良いなあと思います。

(佐々木座長)

これから煮詰めるということですね。

(事務局：小野寺)

資料の部分は、基本的な内容なので、今後御意見をいただいて、さらに付け加えていく予定です。

(吉川委員)

せっかく地下鉄も出来るので、最寄りの駅で調査するというのも良いのではないかと思います。また、地下鉄関連の行事で、若い人が集まる場が多くなっているのです。そういう場に意見が挙がるような簡単な質問でいいので預けておくと、たくさん書いてもらえるのではないかと思います。

(佐々木座長)

アンケートに関して他に御意見はございませんか。

(高山委員)

地下鉄の国際センター駅にロゴとして「宮城県美術館」などが入っているのですか。または、仙台市博物館や宮城県美術館が近くにあるということが分かるものが設置されているのですか。

(美術館：川村総括)

いわゆるサブタイトルは入札制なので有料になっている。もちろん案内板には美術館は入っていますが、ロゴ的なものについては今のところ予定はありません。

(高山委員)

駅の出口に美術館の催し物を掲示するコーナーを設置してもらうとかについてはどうか。

(美術館：川村総括)

今のところはありません。パンフレット等でのPRはしています。地下鉄の駅構内の広告について仙台交通局との交渉はありません。

(高山委員)

地下鉄の駅を中心に東北大があり、博物館があり、宮城県美術館があり、少し移動するとメディアテークがあるという文化ゾーンになっていて、東北大の中にもいくつか博物館がある。地下鉄の駅を降りると「ああ、こういうところがある」という気持ちになるといいのだが、仙台にはそういう感動が生まれるような仕掛けがないので、感動に対して無くても良い的な感じが強い。静かにしていれば良い的な部分も強いので、もっと積極的に見せれば良いのではないかと思う。またせっかく良いものがあったとしても、存在することを地元の人すら知らない状況ではないのか。県と市で連携して、文化ゾーンとして魅力あるところにするといいのではないか。そうしないと、また、周囲から文化度が低いと言われてしまう。

(佐々木座長)

利用者として、竹内委員はいかがですか。

(竹内委員)

県外の他のまちに行くと、必ず駅に特別展のポスターがあります。でも仙台の駅には無いです。横浜では、駅に出前のチケット屋さんがあります。そういう所と比べるとうらやましいです。上野のように美術館がたくさんある所では、駅にチケット屋があるのは当然かもしれないですが、何かの折に目をやるとポスターが貼ってあったりします。仙台はもったいないように思う。シャルフベック展の時は、テレビのコマーシャルでやっていたので、友達から行かないかと誘われることがあった。広げれば利用する人は増えると思う。だから目に入ることが大切。全体的に知っている人は知っているが、知らない人は知らないという感じが強い。広瀬川を挟んであちらとこちらでは全然感覚が違う。県外の他のところではデパートなどが美術館を持っていることが多いので、仙台ではないので違う気がする。浮き世離れしている感じがある。

また、仙台市博物館の方が、イベントに対する広告の出し方がうまい気がする。ただ仙台市博物館でやっていた若冲展や薬師寺展などは美術館の内容ではないのかなと思うことがある。博物館と美術館が曖昧な部分はあっても良いが、似ている気がする。

(高山委員)

美術館も博物館も同じミュージアムだから。

(竹内委員)

私は、博物館というと恐竜とかそういうイメージがあるので、どうして若冲なのかなと思うこともある。

(佐々木座長)

博物館と美術館の違い等は以前も出ていましたが、メディアテークも含めてどのような連携をしていくのか考える時代という点で、資料の中にも入っていたような気がします。

今のサイン関係、広告関係について、とりわけサインに関しては、広告とは一線を画すと思います。町中で、例えば道路に美術館はこちらというような表示をサインすることなどは、無料で国が自主的に設置するものではないかと思う。同じ考え方をすれば、公共交通機関の地下鉄についても、提言していけば仙台市でもそれなりに応えてくれるのではないかと思います。だから美術館だけではなく、県全体で戦略を練っていただければと思います。

(高山委員)

いろんなミュージアムが一望できるような地図のようなものの中で、住民が使い分けていけばいいような土壌を作っていけばいいわけで、自分のところだけ良ければ良いという考え方ではないと思う。みんなが関心があるという場を作っていかななくてはならない。それが弱いのかもしれない。

(佐々木座長)

地下鉄の件だけではないですね。広く考えて、リニューアルにかけてその辺は関わらざるを得ない部分になると思います。御検討願います。

質問等が無ければ、議論の整理について、御意見についてはどうですか

(大場委員)

前回欠席したのですが、書かれている内容にはいろんな要望も希望も夢も入っているので、美術館に対する期待が大きい感じがします。ここは実際には仙台市にある美術館です。利用者は仙台市又は仙台市周辺の方々がほぼ繰り返し来ている部分が多い(日常的)と思います。

博物館も美術館も存在するこの場所ですから、仙台市と宮城県で、(日本ではあまり意識されていないことですが、) 1%ForArt という公共事業を行うときの事業費の1%を芸術文化に支出して、そのお金でいろいろな物を整備していく考え方をもとにして。(アジアでは台湾などでもやられているが、) この周辺をパブリックゾーンとして、この周辺に来たときには、県の目標でもある芸術文化の薫り高いイメージが感じられるような状況にしていくことができないのでしょうか。

県として、このリニューアルに向けた計画の中で、どの程度のものをひとつのレベルとして掲げ、やろうとしているのか見えないので、途方の無いことをいっても実現しないわけです。この近辺に対する、1%ForArtのような考え方ができるのかどうか(もともとはフランスで始まった考え方ようですが、) この辺が広瀬川の向こう側とは違うという感じを、経済至上主義的な物とは異なる、文化的な香りがするぞという雰囲気を意図的に出していくことも必要

ですが、お金を保証できるような策がないと、こうあればいいと部分的な考え方になって、人的環境がどう、物的環境がどうというところに話がいつてしまう。30年も経てば建物は古くなり人も古くなります。(人の場合は30年の中で磨かれて光るようになる部分もあるが,) そういう全体の雰囲気の中で美術作品と合わせた美術館の建物があり、その中では魅力的な活動をしているスペースもあり、作品展示もあるということが夢見られると良いと思う。ただ実現するのが何年後かによって、この話し合いが色あせてきて、形骸化したものになってしまいますから、その辺は、自分の中でのイメージの話になってしまう。

(佐々木座長)

今の意見について事務局ではどうですか。

(事務局：小野寺)

この後の魅力向上の話し合いの中で、まとめてその点にも触れられると良いと思います。

(佐々木座長)

他にはどうですか。

(泉委員)

大きな枠として研究、教育（広報）、創作、運営のセクションがあるが、これだと展示セクションが弱いのではないかと思う。その辺の検討もどこかでやっておいた方が良いと思います。美術館の大きな事業として展覧会、美術展があるわけですが、今やっていることについて自己分析し、それを提示して（反省も含めて）これで良いのか、どこを改良すべきかということはどこかでやらなくてはならないと思います。そこで、前回の資料を見ると、展示には、持ち回りの巡回展と複数のミュージアムによる共同企画と自主企画の3つがあると思います。一番大切なのは自主企画ですが、まじめなテーマを掲げるので、入場人数は稼げないというもので、どこの美術館でも同じようです。人は入らないかもしれませんがまじめな研究ですので、無くしてはいけませんし、ぜひとも支えていくべきものだと思います。巡回展でもピカソ展のように、ここの所蔵品も加えて宮城県美術館らしい展示にしているところも有り、一度整理された方が良いのではないかと思います。

(高山委員)

今の意見に賛成で、まとめの所に展示の問題が無いので、どこに消えていくのかと思っていた。自主企画は美術館の大きな仕事なので、それをどこの視点で置くのかと言うことは大きな議論であり、お金の有るなしではなく、きちんとやらなくてはならないことであり、それが研究につながり、研究結果が自主企画につながる事となる。どちらが先というわけではないが、宮城県ではどういう文化状況だったのか分かる研究がなくてはならないし、東京ばかりではなく、宮城県から発信された物は何かということも分からなくてはならない。毎日毎日若い人の展覧会が開かれているが、県としてその状況は把握しているのか、把握する体制ができていないのか。県で起

きている情報を集めた芸術年鑑などもあるが、美術館でやっているわけではないので、ばらばらになってしまって、全体が見えない。芸術協会のための年鑑などはいらないので、もっと全体が見えるような物が欲しい。その点で、宮城県にそういうことを主導するようなシステムがあるのか、また、是非主導する役は宮城県美術館だと思うので、そのあたりも進めてもらいたい。

(佐々木座長)

議論の整理には他にも意見があるかと思いますが、展示に関しては2回目に議論されましたが、十分な議論は尽くされてはいなかったもので、どこかでやらなくてはいけないですね。時間をおいて、足りなかった部分を補っても良いですね。

ひとは、展示の大事な3つの部分、巡回と共同と自主企画ですが、非常に重要なのは自主企画なので、美術館の学芸員にも観る人にとっても同じだと思いますが、それをどう残していくかということは、発信が無いと言うことにつながっていくと思う。自主企画をきちんとやっていくことで、発信性を持つと言うことになるので、それをどのように保持していくのか、体制を作っていくのかということが大切な議論になってくる。

他に何か展示についてございませんか。

(高山委員)

展示に関してはハード面とソフト面があると思うが、建物を壊してでもやるのか、壁をどうしたいのか、照明をどうしたいのか、流れをどう構成したいのか、常設展と県民ギャラリーをどう融合させるのか、佐藤忠良記念館との誘導性をもたせるのか、庭の回遊性をどうしていくのかなど美術館の在り方を考えて、それを地域にまでひろげるようにしないといけない。また、地下鉄も出来て、外まで拡げる機会でもあるので、その中の美術館という構成まで視野に入れて、美術館の展示や展示空間の使い方をどのレベルまでいくのか順番に検討していかないといけない。漠然とした物では夢物語になってしまうので、話を絞って、例えば目の前であの照明良くないねとか、どういう照明がいいのか、自然照明か、人工照明か、そのためには壁はどうするのか、ホワイトキューブが良いのか、開閉性のある展示用途によって変えられる壁が良いのか、床はどうするのか、もう少し変えられるのか。そういう専門の方もいるので、来られるお客さんのニーズともかみ合うように考えていくのが良いと思うので、今回展示のハード面とソフト面が抜けてしまっているもので、どこかで整理してゆっくりやらないといけない。それだけでも時間がかかる。

(吉川委員)

2点ある。まずこのリニューアルについて、この細分化された部分をやるまえに、本当は宮城県美術館というものが、今後の時代に県の中でどのような位置づけで維持されていくのかがいいのか、もう少し俯瞰した目で見ないと行けない。いつもあまりにも細分化された部分の話し合いが多いので、展示、研究、発表のような学術的な部分と合わせて教育やまちづくりのような社会とつながっていく機能も地方の美術館には求められている。さらに、観光や市民が憩う場、エンターテイメントする場などの機能も美術館は持っているので、大きく分けて3つの機能をこの美術館がどう持っていくのか。その上で、県民に愛され、東北のゲートウェイである仙台にある美術

館として全国から注目されながら運営されていくことが望ましいはずだと思う。今後どんどん税収が減る中で、ミニマムな予算でどう省エネモードで外貨を稼ぎながら、この施設を維持していくのか、かなり俯瞰してマネジメントして維持していくのか、そういう引きの目でのワーキングも必要。それがあるからこそ、展示はどうあるべきなのか、創作室はどうなっていくのが良いのか、考え出されていくのではないかと思います。

展示に関しては、この建物を壊して次の物にするのでなければ、この20世紀的な雰囲気の中に過去の名作がいっぱいあるので、ここの所蔵品が最良の状況に見えるような展示室の照明や壁や床をきちんとしていかななくてはいけない。また、多くの県民は現代美術に触れる機会が少ない県なので、そういったこともこの美術館で行われるとすれば、企画展に関する展示室においては、この建物の中にはなく、別なホワイトキューブを増設することや何か演出しなくてはいけないのかもしれない。

そして、全体として美術館がどういう機能を求められていて、どういう機能を打ち出していかによって、より多くの人に支持され、今よりもっと多くの人が訪れたり、活用したり、あるいはもっと広がりを持った機能を持つことにつながるのではないかと思います。

(佐々木座長)

わかりました。今のお話についてはもっと時間がかかることですが、今後のスケジュールの中では、今の部分に特化して話し合う時間的な余裕はあるのでしょうか。

(事務局：小野寺)

これまでの4回の議論の課題の整理や内部での自己評価を含めて、今後、館としてどうしていくのかなどを整理し、まとめるのに時間が必要かと思います。のちほどスケジュールについて御説明いたしますが、いったんこちらに整理の時間をいただきたいと思いました。その後、今意見として頂戴いたしました俯瞰的なものの見方についても提案したいと思っております。

(佐々木座長)

もし話し合いができるとすれば、本日の最後のところでまた時間を取りたいと思います。まずはこちらのスケジュールに合わせて進めます。他に御意見はございませんか。

(高山委員)

アンケートについてですが、最近の家の中には床の間が無くなってきています。床の間というのは、一般の家の中にある小さな美術館のようなもので、四季折々にそこに飾られる掛け軸が変わるし、お客が来れば掛け軸を変えるなど、小さな美術館として家の中で行われていたのですが、今はそれが無くなってきているので、公的な文化と連結していく視野が欲しい。そういう意識が県民の中に出てこない、美術館は公（おおやけ）のお上がやってくれるもの的な発想になり、自分たちの文化につながっていく発想を鍛えないと、みんなお上まかせになってしまう。そのなかで吉川委員が話したような、街の中とか、現代美術であるとか、チルドレンミュージアムとかいろいろ環境が生まれてきて、それを公的な所がやっていくようにする。アンケートを採るので

あれば、そういう流れが県民や市民の中に出てくるようなものにして、そういう意識を問われているのだ、自分たちが持つことが豊かになるのだという意識を育てないと、お上が作る物と見られると問題になる。

(佐々木座長)

なかなか文言にするととなると難しいですね。事務局よろしくお願いします。その他意見がございませんか。

それでは、先ほどの続きは、もう一つの議題の「魅力向上」が終わりましたから、またやりたいと思います。

続きましてロ「魅力向上」についてです。それでは説明をお願いします。

(事務局：小野寺)

- ・資料2を使って説明。
- ・前回までの意見の中の魅力向上の関わる部分のまとめ
- ・これまで触れていなかった部分のまとめ

(佐々木座長)

ありがとうございました。まず質問からございましたらお願いします。

(高山委員)

県民ギャラリーですが、今現在はどのくらいの利用度なのですか。

(美術館：川村総括)

平成26年度実績では、延べ316日の利用で32000人が入場しています。

(高山委員)

展覧会はどのくらい行われているのですか。それを知りたい。また、展覧会に合わせた一週間ごとの県民ギャラリー1、2の稼働率も知りたい。後でも良いですから。延べとかでは分からないので。

(美術館：米倉副館長)

展覧会そのものは40程度です。利用するギャラリーについては、1だけの場合もあるし1、2両方の場合もあります。それは展覧会の規模によります。

(吉川委員)

その40の内、学生（例えば大学の卒業制作とか）がどれくらいとか、作家がどれくらい使っているかとか、そういう点はどうか。

(高山委員)

県の高校展とか民間団体の展覧会とか有料の展覧会とかもあると思いますが、そういうものの比率がどうなっていて、どんな稼働の仕方をしているのかデータはありませんか。

(事務局：小野寺)

以前概要をまとめたものの中では、一番多いのは学生でした。第1回目に配付した資料の中に2室の利用状況に関する県民ギャラリーの実績もあります。1と2の利用数ですとか、1, 2両方使った数など。両方使っている団体が一番多いです。

(大場委員)

概略的ではなく、どういう展覧会にどう使われているのかということがはっきり見えないといけない。土曜日などの利用の様子も見えないと、開館当時は殺気立つほどの抽選で使われていたことがあって、特に大学の卒展の時などは大変だった。それが空きが目立つと言うことは、私が勤務していた頃から実感していましたが、一般だったらどんな努力をするのかなという事を暗に考えさせられた時期が続いたことは事実です。そういう面からも今度は地下鉄のこともあるので、美術をやるのが目的ではありますが、やった人にとっては見てもらうことも大切なので、今後は期待できるかもしれません。何かを変えていくときには、現状把握が一番大切なので、現状をしっかりと把握しておくということは最低の務めだと思います。

(高山委員)

県民ギャラリーを利用された人たちがこうあってほしいというようなアンケートが残されていると思いますが、開館当初は借りるのが競争で大変だったのが、だんだん空きが出るようになって借りられるようになった。その後、壁の色が白く方が良いというので、ボランティアで白く塗ったこともありましたが、その結果、多少利用しやすくなったのか、そもそもあそこが使いにくいのか。メディアテークができたので、そちらに展覧会が流れているのかよく分からない。

川向こうとこっちは条件が違うので、大きい展覧会をやるにはこちらの方が良いし、ただ仙台は川向こうというと何か遠い感じを持つようで、今度は地下鉄が出来ると川向こうという感覚がなくなって、広がると良いなと思います。今の1はあのままの広さで良いが、2はもっと細かくして少人数でも使いやすくするとか、考え方はあると思いますが、それはアンケートなどで状況を把握しないと分からないと思うので、その前に根本的な問題があるのかどうかということだと思ふ。

県民ギャラリーの機能として、以前は創作室の企画が県民ギャラリーの中に入っていたこともあったが、今は事務方の担当になって開けるか開けないかの判断になっている。美術館がもっと主体的に関わって自由に使えるとか、県民側からの企画展示をするとか、空いているから逆に企画を作って紹介するとかそういうバランスをとりながら生かす方法があると思います。

(大場委員)

私も県民ギャラリーには今後期待しています。特に地下室に入っていくような感じもあります

から、入ってきた時に美術館の施設という雰囲気、気持ち誘導されていくような感覚があると思います。寒々としたところに入っていくという感覚ではなく、あの辺は思いがあれば改善できると思いますし、企画や運営を直接担当する部署がどこかによって、あそこを汚したとか、返却にあれが足りないとか、チェーンがねじれているとか言われたことが強烈に印象に残っているようで、それがある意味使いにくいとか使いたくないという声につながっているようです。これからここは期待できるスペースだと思いますので、何かしら頭に思いつくことをやっただけでも改善できると思います。

(吉川委員)

仙台市内にいろんな貸しギャラリーがあって 私も一愛好家として友達と展覧会をやりたいと思ったときに、県民ギャラリーはとても大きすぎるところがあって、もう少し手頃なところは無いのかということになる。

探すけれども、仙台市内にはどこにも無い。今後、全体的に高齢化してきたときに、今の分け方ではなくて、もう少し細分化できるとか、高齢者でも簡単に設営できるとか、そういうところをサポートしてくれる人たちがいるとか、団体が活動しているとか、そういう機能も含めてリニューアルの時にはゾーニングと運営を考えていく必要がある。

たとえば、電力ビルのグリーンプラザとかは本当に人気で、全然とれません。あのくらいのサイズをみんな待ち望んでいるということで、極めて小さいです。この会議室の半分くらいかと思えます。

(高山委員)

ギャラリー屋台のような感じだね。

(吉川委員)

壁を埋めるにも10人くらいの人数ではそれぐらいがちょうど良いわけです。それからライティングも良いし、たくさんの方が通るので集客も良く、たくさんの方に見てもらえるし、対応も民間の会社がやっているんで、社会貢献として極めて親切にしてもらえる。そういう所はほとんどくじも当たらないので、なかなかとれない。そういう方々がたくさんいるので、ぜひそういう人に利用してもらえるようにしたいですね。

(大場委員)

グリーンプラザは、パネルひとつをとっても、女性が何とかしようとしたらできるレベルになっている。北側と南側にあって、だいたい2グループが使えるし、1つにしても使える。しかも無料なので、なかなかとれない。ここの県民ギャラリーは大きな作品展をするには良いですが、美術家というよりも美術愛好家が楽しむために使えるようにするには、もう少し簡易にしていかなければいけないと思います。

(高山委員)

そうすると、県民ギャラリーにある移動壁を改造というか、簡易な移動壁にしないと使えないので、何とかしなくてはいけない。ある意味スペースは立派だが、移動壁を使いこなせない人にとっては大変な物になってしまう。その点電力のグリーンプラザのような形の方がやりやすいかもしれない。

それから、県民ギャラリーは地下になっているので、入口の所をうまく使えるようにすると導入口にもなるが、何も展示できないので地下に潜るという感じになっていて入りづらい。明るさを工夫するとか、装飾するとか、作家が何かつるせるようにするとか、何か方法を考えないと行きにくい。本展にいくときも通り過ぎてしまうので、何かやっているよと分かるような呼び水をつくれないとデッドスペースになってしまう。上は混んでいるが下はがらがらというのはどうかと思う。

(佐々木座長)

現在、地下にある状況で何らかの改善を施して県民ギャラリーの使い勝手を良くするという事が良いのか、地下ではなく、アネックスのようなものを、別に作るという方法もあると思います。

(高山委員)

ぼくは、県民ギャラリーと講堂を入れ替えたら良いのではないかと思う。県民ギャラリーがフロアに一番近いところにつながるので、中庭も自由に使えるし、講演会やメディア関係は県民ギャラリーの場所でやるということもできる。十分機能を果たせると思うが、広さとしてはどちらの方が広いのだろうか。

(大場委員)

立地条件としてはそういうことも考えることができますと思いますが、講堂の場合は、条件が結構限られていたと思います。外側に何か造れないとか、防災上の問題であったり、使われていないのは使う人がいないとか、使う状況が無いというよりも、使えないということではなかったでしょうか。

(事務局：小野寺)

講堂については消防法上の関係で貸し出しや一般への貸し館はできない状況になっています。そもそも美術館内の付属施設となっていて、一般的なホールという扱いではありません。

(吉川委員)

用途変更はできないのですか。

(事務局：小野寺)

非常口の問題やスプリンクラーの問題などがありますので、その対応が必要になります。

(大場委員)

今度のリニューアルでそういう改善はできるのですか。条件は昔と変わっていないと思いますが。トンネルの上であるとか、クリアできるものなのでしょうか。もしクリアできるとすれば、この30年間、そこに手つかずだったことは、大きな損失であったと思います。

(事務局：小野寺)

関係法規に関しては、この後の基本計画の中で協議していく部分にはなりますが、御意見を頂ければと思います。

(吉川委員)

仙台市の消防は厳しいと聴いていましたが、徐々に緩和されていると思うので、ぜひちゃんと法規的にかなう場所にして、みんなが集って一緒に何かできる場所になると良いなと思います。

(大場委員)

やはりリニューアルというのは、難しい感じがします。開館当初の無から有を創り出していたときは、大変元気があったと思います。館長をはじめ、その当時の人たちが直接交渉できる部分は、知事部局にダイレクトに行って話をしてきました。県民も期待感があったので、全ての状況が元気があって夢があった状況でした。リニューアルというのほどまでやるのかということがあるので、言う方もどこまで言って良いのかというところがありますし、言われる方もどこまで自分たちが受け止められるかという所があると思います。非常にこの会議、懇話会では明るさに欠けているように感じます。

(佐々木座長)

講堂の吟味については、2ページにも出ているので、法規的な物だけではなく、展示まで含めて可能なかどうかを示せるように検討していただきたいと思います。

現在、全国の美術館でも、収蔵庫が満杯の状況になっています。ただ収蔵庫が満杯なのでという理由で新しい作品を収蔵しないとか、非常に良い作品だが特別大きい作品になると避けてしまうという傾向があります。いわき市美術館も同様です。だから収蔵庫をどう確保するかと言うことは非常に大事な問題になるわけです。暴論かもしれませんが、例えば地下の県民ギャラリーに無理にこだわらずに収蔵庫にしてしまい、県民ギャラリーはフラットな部分で床と同じ高さの所に設置するという方法も一つかもしれません。それも含めて考えた方が良いのではないかと思います。

(大場委員)

結局、収蔵をどうするかと考えたとき、県民ギャラリーが収蔵庫に戻るということは、当初に戻るということで、今はいろんな点であいまいになっていると思いますが、国の研修所に関する土地取得の問題があり、かなり具体的な内容で収蔵庫のことも含めて部課長会議で検討した時代がありました。その辺も今では駐車場やテニスコートになっていますが、その頃のは具体案のためだけの具体案ただただで、なにひとつ実現されていないわけです。そういう話し合いが繰り返

返されてきた経緯を考えると、今回の話し合いもどこまでなのかなと思うことがあります。やはり宮城県美術館がこの時期にリニューアルするという機会を作ったのですから、この機会を逃すとまた話だけで終わってしまうので、ぜひ実現して欲しいと思います。

今は一般県民として、美術館に対して夢を持っているファンとしてもそう思います。

(佐々木座長)

ちなみに県民ギャラリーの天井の高さはどれくらいですか。

(三上副館長)

展示室と同じで4メートルくらいです。

(佐々木座長)

2階の展示室と同じということですね。分かりました。

(竹内委員)

いろいろな話が出ていますが、基本的な部分で、リニューアルというのはどの辺までが変えることが可能なのか分からないと、例えば講堂を無くしてしまっ、県民ギャラリーにすることにはとても賛成ですが、もし今の講堂を壊して更地にするととてもお金がかかるのではないかと考えてしまいます。

地下を収蔵庫や研修室にすることもすばらしい考えだと思いますが、さてどのくらいまでのリニューアルにもっていくのかなというのがずっと気になっていました。宮城県の考え方をある程度聴いていないとどのくらいのものとして考えて良いのか迷ってしまいます。

(高山委員)

県からはあまりそういうことを考えなくて良いですよということでしたよ。

(竹内委員)

では、主婦の立場としては、壁も床も天井もと、どんどん考えていたら、はじめと全然違うお金が生じてしまったとなると、大丈夫かなと思うこともあるので、どのくらいまでいいのかなと思いました。

(小野田委員)

それはそうですね。今竹内委員からお話がありましたが、前から申し上げているように、ベンチマークスタディをしたり、この建物がどういう物なのかをある程度査定した内容を提示して委員の皆さんに議論していただく形にしないと、これはこれで一流の委員がそろっているのに、話としては面白いのですが、これを戦略的にどうもっていくのか、どのくらい投資できるのかということが分からないので、まったくあまり意味が無いように思います。一番始めの会議でも申し上げましたが、そこから半年たっているのにほとんど進んでいない。予算が付けられないのでコ

ンサルできないと言う理由でしょうが、でも、そんな理由でこの1年間を無駄にして良いのかなと思います。

(高山委員)

話だけで終わってしまうということも有り得るよね。

(大場委員)

会議だけの話題として、さきほどの国の研修所の土地を手にした時に、こういうものに具体的にしていこうという話し合いをした記録が残っていないとすれば、話し合いだけで終わったということで非常に残念です。今のレストランの部分やショップの向かい側や、この美術館にしては、図書室がちっぽけであること、普及部の場所が手前の食堂の向かいの場所にあつて、有機溶剤の臭いがきつくて、活動を止めなくてはいけない状況などもありましたが、新たに別な場所に移動するとか具体的にいつやるかということがなかったのので、図面等に落とし込むことは無かったのですが、互いの話の中では具体的な話がたくさん出てきました。講堂のことにしても県民ギャラリーや収蔵庫についてもずいぶん出てきて、収蔵庫は土地の高いところではなくて土地の安いところに作った方が良いのではないかという案なども話し合っていたわけです。そういうことを通過してきているわけです。

(小野田委員)

やはり、話が具体的にしないと難しい。具体的にするには、現況調査やベンチマーキングが不可欠なので、以前、萩ホールの例でもお話ししましたが、実際にやった上でないと、リノベーションをするときには、法規的なこともあります。やれることとやれないことが限定されてくる。それを知らないと、そこをサーベイした上で進めないとならない。今の話は、土地と建物のことですが、もう一つは運営です。運営でもやれることとやれないことを踏まえて、みんなそれをおかいくぐりながら進めている。委員の中村さんなどもいろいろな仕掛けをやっている。

そういうこともベンチマーキングした上で、宮城県美術館のコンセプトに合わせていくとどれを取捨選択していくのか、その上で市民のみんなにあたりをつけていく。何も無いところで市民に聴いても、すごくコストがかかることになると思います。アンケートなどにコストをかけるのであれば、なんでベンチマーキングのコンサルのような具体的な資料をつくることに予算をつけないのかと思うのですが、そっちの方が役に立つと思います。日常的に使いやすい美術館がいいということが何%とか出して何になるのか。もっと具体的に物事を詰めて、今何がやれて何がやれないのかということをお考えた方が良くと思います。県民の一人としてアンケートに税金を使うようなことには反対です。

例えば、この懇談会が外部の人間が参画したある組織の経営会議だとすれば、経営会議のための資料を作るのに、駅前アンケートをとるだけではあまり意味がない。他者は何をしているのか、自分の持っているファシリティがどのくらいの財産になっているのかとか、どこに傷みがあるのか、そういうことが分かるとはじめて正しい判断ができるのであって、何かすごく不思議です。

(高山委員)

でも県の方で、いろんなデータは持っているのではないかな。それが出されないことを最初から話しているのだが、職員は何のために机に座っているのかが分からない。

(小野田委員)

今やれない理由はなんとなく分かるし、お金が無いと言うことも分かるが、このアンケートを実施する予算はあるんだと思ってしまいます。

(事務局：小野寺)

アンケートについてはゼロ予算で実施します。

(小野田委員)

もっとプロフェッショナルにやったほうが良いと思います。これは一つの事業でもあるわけで、いろいろな競争相手がいる中で、危機感を持っているクライアントであれば、同じ行政体でも、もうちょっと踏み込むのでは。まあ形式を重視しすぎると踏む込む必然性を感じないかもしれませんが。県という行政体の難しさは、何となくわかりますが、もっとやれると思いますので考えてみてください。

(高山委員)

このままずっと1年間やっていて何も出てこないということになってしまう。

(小野田委員)

話はとても面白い。問題はそれをどうするのかということで、どうしたらやれるのか、それに対するスタディがないので、なかなか深まらない。

(佐々木座長)

事務局からは、第5回目を開かないで、2月の予定の会議を5月に延期すると言うことでしたので、これまで議論していただいた内容と基本的なデータや今日の話の中で出てきたデータなどを基にしなければ、踏み込んだ議論ができないということも委員からの御指摘のとおりだと思います。そういうデータ等をそろえた段階で、ゆるやかな構想も含めて第5回目以降で再検討していくということはいかがでしょうか。

各委員からも意見が出ましたので、それぞれ聴き取りをして必要なものを集めていきながら、アンケートはゼロ予算ということですが、その他のベンチマーク方式ですとか、より有効な手立てがあるというのであれば、委員に聴き取りをして、できることは5月の会議までに見える形にして欲しいと思います。いかがでしょうか。

(事務局：小野寺)

今スケジュールに話に移っているようですので、スケジュールについて資料3で説明します。

これまで、現状や課題について、外部の方からの御指摘や御意見をいただいているところです。実際には2月にまとめてと予定しておりましたが、やはりこちらの議論の整理や課題への対応や、委員から御意見としていただいた、いろいろな調査等の実施もありますし、これまでの御意見を受けて、こちらとしてどうするかなどをまとめて形にしたものを、お出しできた方が良いと考えます。

本日いただいた意見も生かすようになりますが、たくさんの宿題も含めて、それらに関してすべて対応できるかどうかも含めて、少しお時間をいただきたいと思います。今回までは現状と課題について忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。今後整理する上で大変参考になりますので、それを踏まえて提案していきたいと思います。

(佐々木座長)

今後のスケジュールについても御説明いただいたわけですが、多少第5回以降については、予定通りにはいかない可能性があるということです。少し後ろに下げて、検討していくという事もあるわけですね。委員の皆さんに熱をこめて御議論いただいている結果ということですので、御理解いただきたいと思います。

事務局からは少し猶予をお互い持って、5月に会議を開くということです。

(大場委員)

過去のこういう構想があったということは、あくまでも公務研修所の土地を美術館として将来を見据えて取得するための意義付的なものであって、実際に作る場合とは別なものと思います。土地は今、美術館の物としてあると思います。

(佐々木座長)

今の段階で、美術館の魅力向上について何か御意見があればお願いします。

(高山委員)

この美術館の建物は、構造上この上に足し増しができる様な構造になっているのですか。

(美術館：三上副館長)

はっきりとしたお答えはできませんが、以前確認した条件として、西道路のトンネルの上には建てられないということは分かっています。この建物をいじることができるかどうかは、はっきりしませんし、この上に立てることができるかどうかは建築的な部分で把握はしていません。

(高山委員)

以前屋上をうまく使えないかということ考えたことがある。屋上庭園や屋上に展示することなどうまくできないか、青空展示場ができるかどうかなど検討したのですが、そういうことが可能かどうか。何か足せば可能なのか、建築的なデータはどこかにあるのでしょうか。

(小野田委員)

通常は加重がかかってしまうし、現在の建物を踏まえて設計されていると思いますので、やれないことはないでしょうが、結構お金がかかるでしょうね。

(高山委員)

砂利ばかりの屋上になっているので、砂利を抜けば軽くなるのかなと思ったりもするが相当重いのになんで背負っているのかと思います。

(小野田委員)

基礎や構造などを補強してやれば技術的にはできると思うが、かなり高く付くと思います。

(泉委員)

以前、川内キャンパスの一部をリニューアルした際に、高さを2層高くしたいと設計したのですが、柱を太くする場合、そのための事前発掘調査が必要になりました。場所が仙台城跡地なので、掘れば何か出てきてしまうので、増築はあきらめて、今の場所に作り変えたということがありました。

(吉川委員)

魅力向上ということで「広報・情報発信」という部分がありまして、改めて今回資料としていただいたパンフレットを見たのですが、美術史上重要な作品をピンポイントで結構持っていると思いますが、一般の人には全然知られていなくて、カンディンスキーについても、知らない人が多くなってきています。(美術教育が無いので) 実はこの美術館が抽象表現のおおもとになった画期的な作品を持っているのだということを、こういう物(パンフレット)で分かりやすく伝えられないのだろうかと思うわけです。英語の表現部分を見ても、何年に出来ましたから始まっているので、誰も魅力的な美術館とは思えないのではないのでしょうか。こういうところの表現一つを変えることで、「ああこういう作品があったんだ」「重要な作品なんだ」もう一回見てみようと思うかもしれないわけです。魅力を向上させるというのであれば、建物のリニューアルではありますが、もっと今持っている資産を魅力的に見せる方法がたくさんあるなあと思います。

(高山委員)

こういうパンフレットを作るときは外注ですか、内部でやっているのですか。

(吉川委員)

内部の人が原稿を書いて、外注するのですよね。コピーライティングをする時に教育普及の人とコピーライターが一緒になって、どういう見せ方をしたら良いのか、WEBサイトも含めて考えてみるとか、今あるものだけでも、かなり向上できる余地はあると思います。もったいない。この美術館は良い物をたくさん持っていると思います。

(高山委員)

このデザインもパターン割だけなので、芸がなさ過ぎるから、考えないといけない。

(吉川委員)

宮城県の中で一番おしゃれであって欲しいですね。

(泉委員)

英語の重要性がありますね。グローバル発信という視点でやっていこうとするわけですから。デザインと英語の発信というのは、是非力を入れて欲しいですね。

(佐々木座長)

いわき市美術館の場合には、日本語バージョンと英語バージョンを別々に作っています。バイリンガル表記になると、どうしても情報量が少なくなってしまうので、写真が小さくなってしまったり。考え方ですね。

あと、吉川委員の御指摘にもあったことですが、例えば、子ども向けのワークシートなどをよく博物館などでは大量に作りますが、だいたい、子どもが読みたくなるような文章の作りにはなっていないことが多いです。それぞれの専門家が専門的なことをきちんと入れなくてはいけないと思って作るので、文章ばかりになるし、かなりピントがずれた内容になったりして、ワーキンググループで精査してみた時に、専門家が書かない方がより市民や子どもの目線にたった良いものができて、受け入れやすくなるということが分かってきました。専門家が書かないということはジレンマになるとは思いますが、今後はいろんな博物館や美術館で検討されてくることだと思います。余力が有るか無いか。お金を出してそういう人を雇うかどうかという問題になると思います。そういうことも含めてもう少し提言し続けて様子を見るしかないかなと思います。美術館の人は十分に考えていることだと思います。なかなかうまくいかないと思いますが。

他に何かありませんか。

(高山委員)

今年のいわゆる自主企画はありますか。

(美術館：三上副館長)

杉戸洋展がありました。

(高山委員)

杉戸洋展ね。来年の予定はあるの。

(美術館：三上副館長)

今のところ来年はないです。

(高山委員)

それは、いわゆる自前の県の予算では組んでないということですか。

(美術館：三上副館長)

巡回展を計画している中で、自主企画が入る余地が予算的には難しかったということです。

(高山委員)

それがどれくらい駄目なことかということが県の人に分かっているのかどうかということです。発信できない美術館とは何なのか。そのことのジレンマが起きていないことが不思議でしょうがない。東北の中で宮城県がどんどん沈没しているのがよく見える。そのことを県の職員が自覚していないことにびっくりする。誰が見ても分かることが分かっていない気がする。その辺の感覚（アンテナ）が壊れているのではないかと思う。どうですか。

(小野田委員)

県という行政体はどこも難しくなっていると思う。特に宮城県は仙台市がいろんなものを持っているので、難しいのではないかと思う。県は県でやるべきことや復興でもちゃんとやっているとは思いますが。ただ知事の方針もあってなかなか文化芸術には非常に難しいのかもしれませんが、東北の中で宮城県に期待されている役割は大きい。中核なので、資東北の資産を価値づけて発信していくという位置づけはあるはずなので、厳しい状況に置かれていることは分かりますが、頑張ってもらいたい。せつかくいろいろやっても、あまり発信しない。

(吉川委員)

青森県とかを見ると、潰れそうな自治体はアートで何かしようと思っている。山形県もそうだけど、プロフェッショナルなアート活動がまったく無いのが仙台や宮城県。まだ困ってないからだと思う。でも宮城県の方は大変だと思う。自らを助ける物は文化だと思う。観光においても文化の無いところには人は来ないし、今文化のことをやらなくてはならないという意識は危機的な自治体は、県だろうが市だろうがやっているの、私に関わっている八戸市は、人口24万人程度のまちですが、美術館について3年先まで考えている。すごい勢いです。やる気があればできるという例ですが、いろんな人に意見を聴いて、それを取り入れて、どんどん調べてやっている。そうするとみんなも力を貸そうという気になる。特に震災後、いろんな人が力を貸してくださっているから、非常にチャンスが来ているのもったいないと思う。アート系のお金を持っているところも来ているのに、ゲットできればすごく大きな財産が作れるのに。本当にじりじりとしています。

(佐々木座長)

みなさん県を愛する心から苦言を呈しているということを御理分いただきたいと思います。

(高山委員)

一度県の外から俯瞰してみると良いと思う。宮城県がどういう状況になっているかという事が分かる。でもそれをできるだけ観ないふりをしているのか。観たくないのか。

(吉川委員)

今、若い人たちがもう宮城県を面白いと思っていない。文化的な活動や新しいクリエイティブな活動がないから、みんな青森県や山形県にいつてしまう。すごく有名なアーティストも含めて。この損失が一番大きい損失だと思う。

(高山委員)

だから、宮城県は何をやっているのということになる。ここから発信する物が他の県から見えないので、宮城県どうなっているのかと言われることになる。

(佐々木座長)

仙台の街の中には、アーティストレジデンスとかスポットとかあるのですか。

(吉川委員)

演劇工房 10BOXが小さい予算で空き家を借りて、震災前は細々とやっていました。政令指定都市の規模のものではありませんでした。今どこでも、アーティストレジデンスで町を興そうとしている時代なのに、この規模の都市でそういうことがないのにはびっくりします。

(高山委員)

今の話は県レベルの話だが、本当は仙台市の区レベルやまちレベルで文化のレジデンスが起きるはずなのに、何もない。また日本の中のど田舎になっていこうとしている。ど田舎ならど田舎でぎりぎりそれを逆に武器にしてやりようがあるのだが、仙台にいと適度に生きていけるので、それ以上何もしたくないとぼけてしまう。学生の中には、東京にも行きたくない、世界にも行きたくないという人が多くなっている。これぐらいがちょうどいいのではないかと思っている。

(佐々木座長)

まあ、リニューアルとレジデンスとは直接関係ない話かもしれませんが、活動面ではアートのもう一つの側面ですので、美術館によってはデンマークのルイジアナ美術館のように美術館の中にアトリエとレジデンスの滞在する場所があって、ジムダインの一点2億円の作品が数十点一部屋にたくさん並べてあって、全部それはレジデンスのお礼ですと寄贈された物ということもあります。それを求めてレジデンスをやるのは違う話ですが、街の中にあったり、郊外にあったり、場合によっては美術館とタイアップしたりといろんな形があっただけだと思えます。そういうことも多少念頭にあっても良いのかなと思いました。

(吉川委員)

八戸では、町の真ん中にレジデンスの機能を持ったので、アーティストが来ていろいろな活動を展開するわけです。絵を描いたり、彫刻をしたりというわけではないですが、非常に古い商店街にアーティストが入ることでコミュニケーションが再構築されて、まちが活性化します。そういう場があると、東北に今眠っている我々も気づかない資産を引き出して、ああそれを観たいというものに膨らませてくれます。また、我々がとらわれている変な常識をぶち破って、そのことですごく重要な人と人を結びつけて、新しいエネルギーを作ってくれます。

(高山委員)

私は、この委員会とは別なところで復興のための環太平洋的なことが考えられないかと提案したことがあります。特に何も反応はなかったのですが、チリの津波を受ける範囲だし、全部火山帯でもあるし、文化として共通の縄文文化圏を下地として持っているのです。その環太平洋文化圏の中で、地震復興の研究も含めて考えたり、それとアートを関係づけていくようなものを宮城県で県センターのようなものを立ち上げて、それを指導していくようにすると、過去も現在も含めて縄文文化やカンタベリー文化の基地となるわけです。それを外から見ると再興となる。そういう雰囲気や作ることを話しても県の人にはぴんとこない。

(吉川委員)

本当はそういうアートセンター的機能も美術館の中にあって、人的機能が併設されることによって、いろんな情報がセンターに入ってくるようになります。そのことによって展示も活性化され、多様な人が集まる場も作られ、美術館が活性化してくるから、美術館は必要だね、税金を使っても良いよというようになると思います。まずみんなが納得できるような活動があるといい。

(高山委員)

本当にそういう計画をたてて、知事が考えれば、国だって動くぐらいのことができるはず。

日本には世界的な芸祭が出来ていない。横浜はぎりぎりやっているが、それだけ日本には、呼ぶだけのもとなるものがない。逆にこの震災を武器に、呼び込むように宮城県が核になれば良いと思います。

(吉川委員)

今度石巻に余所の人が出て、イベントをやってしまうことがとても心配です。本当は、結果が地域に資するようになってくれればいいのですが、ここの古来からの文化に通底したものが分かっているともうすごく強いのですが、被害を受けたから突然東京の人が来て何かをイベント的にやっていくのでは、文化とは呼べない。

(高山委員)

あれは震災をもとにして植民地的にやっていくわけで、手を出すなど言ったりしていたのだが。

(吉川委員)

でも、莫大なお金を持ってきてくれるわけですから、それをもっと自分たちの血肉にできればいいのに。その受け皿が弱い。アートセンターがあれば、そこと一緒にもっと良い物が出来たかもしれない。

(高山委員)

かえって地方から観れば。ただの労働力になってしまう。

(佐々木座長)

魅力の向上と言うことでいろいろその他まで幅広くお話をいただきました。時間もそろそろきましたので、今日はこの辺までとしておきます。

(高山委員)

次は県からデータがどれくらい出てくるか楽しみにしています。

(小野田委員)

データというか、活動もそうですが、何にどれくらいお金がかかって、どんな仕組みでやっているのかということです。

(吉川委員)

基本的にはそれが経済効果になっている。そのためにやっているわけではないが、もう少しアートの社会的な側面を、知事始めみんなに理解してもらいたい。昔のただ絵を並べているのが美術館ではないと言いたい。そこに大きな誤解があるのでは無いかと思ってしまう。

(小野田委員)

どういう活動がどう行われて、どのくらい効果を持っているのかということを実際に調べていないからこうなる。

(高山委員)

リアスアーク美術館でも津波美術館に変えても良いから、きちんと津波文化のことを考える美術館としてやってみてはと言うのだけれども、誰もお金を出してくれない。

(佐々木座長)

それでは協議をこれで終了いたします。その他今後のスケジュールについてはさきほど説明いただきました。何か付け加えはありますか。無いようですので、次の連絡に入ります。次回の開催については、先程の通り来年の5月を予定しているということでした。

その他に何かございますか。

(事務局：小野寺)

資料と一緒に会議録もお渡ししましたので、何かあれば事務局までお願いいたします。

ピカソ展を開催しておりますので、もし御覧になりたい場合は、後ほどお声がけください。

(事務局：上原)

以上をもちまして、第4回宮城県美術館リニューアル基本構想策定に係る懇話会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。